



## 京大卒のマーじゃんプロ

センター試験が近づき、新聞にもそれに関係した記事が掲載されるようになった。昨日の朝日新聞に掲載された「夢ない人こそ受験頑張れ～京大卒の麻雀プロ松嶋桃さん～」という記事を紹介しよう。ちなみに、ネット上には動画インタビューも掲載されているので、記事を読んで興味を持った人はアクセスしてみてもいいだろう。

[https://digital.asahi.com/articles/ASKDF5HCCKDFUEHF00Y.html?iref=comtop\\_photo](https://digital.asahi.com/articles/ASKDF5HCCKDFUEHF00Y.html?iref=comtop_photo)

\*

京都大学法学部、同志社大学法科大学院を卒業したあと、マーじゃん（麻雀）プロとして生きる道を選んだ女性がいます。日本プロ麻雀協会所属の松嶋桃さん（33）。なぜ有名大学を目指し、その後にマーじゃんの世界へ進むことを決めたのでしょうか。

### ■高校時代まで

小学校に入る前に祖父が「小学生はマーじゃんができないとね」とマーじゃん牌を持ってきて、教えてもらったのが始まりです。小学生はマーじゃんができないといけないのかと思って入学したら、だれもできなかった。でも家族でずっと続けていました。

マーじゃんは運と実力の両方の要素があるので、覚えてたでも勝てる時があるんですよ。たまたま勝てるとうれしかったのを覚えています。

名古屋の南山高校時代は、のんびりした高校生でした。部活は「割烹（かっぽう）部」という、料理部のようなところに遊びにいってました。やりたいことってなかったんです、私。あせって決めることもできなくて、「どうしよう」ってなって。

### ■D判定 でも「最後に伸びる」信じて

ただその中で、将来いつか夢を持ったときに何でもできるように、いい大学に行こうと思ったんです。京都大学に決めたのですが、私はずっとD判定でした。EとDしか取ったことがなくて。

不安ですよ。「最後に伸びる」という先生の言葉を真に受けて、当日いい点を取ればいいやと思って勉強していました。開き直る。「模試は模試だから関係ない」と思っていました。本番じゃなくてよかったと。不安になる暇があったら、1秒でも多く勉強したほうがいいですよ。

受験は暗記だと思っています。全科目パターンを暗記して、それを試験で応用できるかどうかという戦い。暗記のためには、情報を一元化して持ち歩くのが大事です。たとえば社会でノート、教科書、資料集、地図帳、年表があると全部覚えるのがしんどそうですよね。だから、ベースとなる教科書を決めて、そこにすべての情報を書き込みました。

それを各科目つくって持ち歩く。ひまさえあれば読む。そうすると勉強へのハードルが上がらないんですね。電車の中でもテレビのCMの間でもいいんですよ。

### ■初めて将来のことを考えた

大学時代はめちゃくちゃ遊びました。主にマーじゃんですね。新歓の飲み会に行くと誘ってもらい、入学式の前にすでに2回くらいマーじゃんをしていました。その後もマーじゃん店で遊んでいたらオーナーに誘われ、働き始めました。

（次号に続く）